

ろくおん通信

No. 99

発行日 '98年2月15日
発行 盲人情報文化センター
録音製作係



墨字の情報の半分も音声化していない！？

音声訳者が墨字を音声化しているといっても、墨字情報のすべてを音声化しているわけではありません。つまり、墨字は、もともとたくさんの情報を含んでいますが、音声はそのうちの一つしか表現できません。

例えば、「わたし」「私」「ワタシ」「WATASHI」もすべて音声では「ワ」「タ」「シ」となり、どの活字かそのままではわかりません。さらにこれらが横書きか縦書きか、活字の種類は？、活字のポイントは？などを含めると、実は音声では墨字情報の半分も音声化していないということになりそうです。半分も音声化していないのに意味が通じるのは、普通は漢字なのかカタカナなのかローマ字なのか、縦書きなのか、横書きなのかなどの区別をする必要がないからです。しかし、時にはこれらを区別しなくては意味が分からないことが起きてきます。

たとえば、文章が「書き方・表記」な

どを問題にしていたり、他に同音異義語があり言葉が特定できなかったり、視覚的に区別しているような時などは必要な情報を読み込んでいかななくてはなりません。そうしないと文意が正しく音声化されたことにはならず、「原文に正確な音声訳」とは言えないわけです。（たまたま今回の練習問題に縦書きなのか横書きなのかを区別しなくてはならない文章もでています。）

しかし、それが具体的な文章の中で、どんな場合に必要か、また、問題になる箇所が分かっても、どのように読み込むか、という問題があります。せっかく補足する箇所が分かっているてもその補足の仕方がまずいと、かえって分かりにくくすることになります。補足の仕方もより私たちが原文を読んでいくのに近い方法がいいわけです。

ではこの技術をどうして磨くかということですが、そのひとつは「利用者の立場で校正する校正者」によって磨

かれると思います。音声訳者自身が音声化しながら必要な2次情報を読み込むセンスはそう簡単にはマスターできません。しかし、校正者の場合はそれを指摘するのは簡単です。原本を見ずにテープだけを聞いて「意味が通じない」箇所を指摘すればいいのですから。特に複雑な原本の場合は適切な処理がなされているかどうかは、原本を見ずに耳だけで一度校正してみると良いでしょう。そうすると「処理のまずい箇所」がよくわかります。つまり、処理が「適切な場合」は校正者はそのまま何も気が付きませんが、処理が不適切だと文章の意味が通りません。また、耳だけで聞いて意味が分かったとしても、原文をみたらまったく別の意味だったりする事もあります。そういう時に、校正者がその箇所を指摘すればいいわけです。

音声訳者が適切な処理がなかなか難しいのは墨字を見てしまっているの、見えていない人の立場に立つことがなかなか

今月の練習問題

熟字訓

それには三つばかりの方法があります。その第一が「熟字訓」。「五月雨」と書いてサミダレと読んだり、「時雨」と書いてシグレと読んだりする例です。「紅葉」がモミジであり、「土産」がミヤゲである。どうしてこういうことが起こるかと言いますと、シグレにあたる中国語がないので、意味を考えて、ときどき降る雨だからというわけで時雨と書いてシグレと読むのです。あるいは、旧暦五月に降る雨だというわけで「五月雨」と書いてサミダレと読むのです。別に「時」をシグと読んだり「雨」がレと読まれるというものではないのです。

熟字訓の中には、随分難解なものがあります。東京の電話帳にこんな珍しい苗字が出てきます。「四月朔日」ー旧暦四月一日になりますと綿入れをぬぐというところからワタヌキさん。「栗花落」ー梅雨に入りますと栗の花が散るという意味で、ツイリさん。「月見里」ー山がなければ月がよく見える里ということ、ヤマナシさん、ということになります。

難しいからです。

音声訳者は音声化された情報というのは原本とはまったく違うものだという認識が必要な気がします。多くの音声訳者は墨字と同じ物になっているという錯覚をおこしているように思います。しかし、実際はそうではなく、活字と音声はまったく別物で、活字情報の少なくとも半分以上はいつも省略されているのだということを自覚しながら読み進めていくべきだと思います。このことをあえて強調するのは、音声訳者はこうした自覚を持ちにくい面をもっているからです。つまり、墨字も日本語で、音声も日本語に置き換えるので、無意識に活字と同じものに置き換わっていると錯覚してしまうのではないかと思われるからです。実は、墨字情報の「半分」も音声化していないということを意識しながら音声化していくこともセンスを磨くひとつのような気がします。

箸のあげおろし

昭和三十年をS30とかS30とか書く人があます。従つて平成四年はH4とかエ4になる。会社の書類なんかはその手の書き方をする。テレビのテロップでさう書く局もある。気に入らないねえ。わたしはあれを見るとムカムカするのだ。

あれと同じくらゐ嫌ひなものは何だろう。一つだけ例をあげれば、ループ・タイ。わたしは一度も結んだことがない。好感をいだいてゐた人がこれをしてゐるのを見ると、ああこの人もとうとうこんなことになつてしまつたのか、と暗い気持ちで同情するのである。大体、年はとつても威勢がよくて颯爽としてゐた人が、急に老けこんで無精になり、横着をするやうになると、あれを結んで人前に現れるやうだ。

どうして厭なのかといふと、きちんと本式のネクタイを結ぶのでないし、さりとしてネクタイなしで押し通すのでもなく、申しわけに紐をちよいと引つかけてこまかして、これだつて一応ネクタイをしてるんですよと言ひわけする、その中途半端な物腰が気に入らないのです。男の風上にも置けないと思ふ。

あんな情けないスタイルをするくらゐなら、いつそ、タートル・ネックにしたらどうだ。ちよつと古風にすぎるか。

それならカラーなしのシャツはどうだ。これなら、いま流行の最中だぞ。いや、すでに落ち目かな？

同様に、もし平成四年と書くのが趣味に合はないのなら、それはそれでいい。しかしH4とかエ4とか、そんな中途半端な欧化主義、鉛筆みたいな表記はよして、いつそ堂々と、一九九二年とか一六六二とか書いてくれ。それぢやあ長くて困るといふのなら、九二年でも、62でもいいや。

そして、そんなイエス・キリストの生れた年などを基準にする数へ方なんかで行つては、昨今の復古的な風潮のなかではきつと睨まれる、ああこはい、と言ふのなら、それならごく普通に平成四年と書きませう。

酔いしれる

酒に酔つて、正気がなくなること。また、比喩的に「ある対象に心を奪われ、うっとりする」という意味に使われる。類似する句に「うつつを抜かす」というのがある。

「うつつ」は「夢」に対する語で、意識で把握している正気のこと。それを「抜かす」から、心を奪われる状態になるのである。「酔いしれる」の「酔い」の部分とはもかく、「しれる」とは一体何か。漢字で書けば「痴れる」。『岩波古語辞典』によると、古語の「領る」の受け身形で「何物かに心の働きを占領されて麻痺・夢中の状態になる」と。仏教語に「貧瞋痴」というのがある。むさぼりと、怒りと、無知の意で、人がなすもろもろの悪業は、すべていつ始まつたともないこの「貧瞋痴」によるものであると言われる。「しれる」のは、三毒または三不善根の一つである。現代語では、「しれる」単独ではほとんど使われることがなく、「酔いしれる」や「しれる者」など複合語の中に化石化して残る。

・6月13日 前記四名はホテルオークラの客室に集合した。三島は、自衛隊には期待できないから自分たちだけでやると言い、行動案を示した。すなわち自衛隊の弾薬庫を占拠して武器を確保したうえ弾薬庫を爆破すると脅し、または東部方面総監を拘束して人質とし、自衛隊員を集めさせて三島が主張を訴え、決起する者があれば共に国会を占拠して憲法改正を議決させる、というものだった。三隊員は、弾薬庫の所在が分からないし両案を同時に行うには楯の会の兵力が不十分との理由で反対した。三島はまた、楯の会結成二周年パレードを十一月に市ヶ谷駐屯地内で行って東部方面総監に観閲してもらい、その場で拘束を実行することを提案した。

・6月21日 右四名は山の上ホテルの客室に集合。三島は十一月に市ヶ谷駐屯地のヘリポートを楯の会の体育訓練場所として借りたが、総監室はそこから遠いので第三十二連隊長を拘束しよう変更したいと言った。武器は日本刀、三島がそれを搬入することとし、そのため自動車の購入を決めた。

(この頃から毎月一回、市ヶ谷駐屯地の一号館バルコニー前グラウンドで楯の会の訓練を行った。)

・(推定6月28日 私を含む「サンデー毎日」記者三人が「土道について」インタビューのため三島邸を訪ねた。)

・7月11日 小賀が三島から渡された金でコロナの中古車を買った。

・7月下旬と8月下旬 右四名はホテルニューオータニのプールに集まり、行動を共にする者として新たに古賀浩靖を加えることにした。

・(8月後半 三島はポリシヨイ・オペラの切符の件で毎日新聞社に来た。)

・9月1日 森田と小賀は古賀(小賀をチビ小賀、古賀をフル古賀と呼んで区別した)を新宿十二社のスナックに誘い、小賀が「三島先生と生死をともにできるか」と問うた。古賀は楯の会の入隊いらい日本を覚醒させるために生命を捨てる覚悟をしていたので、べつに驚かなかつた。森田が「市ヶ谷駐屯地内で行動する」と言い、古賀は「お願いします」と参加を志願した。

・9月9日 古賀は銀座の西洋料理店で三島に会い、十一月二十五日の行動案の詳細、三島自決の予定を打ち明けられ、参加を誓った。食事をしながら、三島は「ここまで来れば地獄の三丁目だよ」と言った。

二通りの読みがあって意味が異なるもの (5,4)

作文	サクブン	文章を作ること	決まり	キマリ	決まること。決着
	サクモン	漢詩を作ること		サクリ	鍬でうちかえした所 また、その溝、うね
告文	コクブン	上申の文書	層	ウツ	重なること。重なり
	コクモン	天子が臣下に告げる文		コシ	建築物の階層の単位 しな
□数	ケンカク	話す量。言葉の数	金文	キンモン	金言を記した文章。
	コウカク	人口数。人数。品物の数		キンブン	銅や鉄などで作った容器。貨幣などに鋳出したり刻みつけられたりされた銘文。

先月の例文の処理例

注 反転箇所が処理の例

「ひまわり」ってなに？

・・・いわば期待の（衛）星である。

書いてある通りに、「いわば期待のエイ、エイセイノエイ、星である」と読んだのでは、意味が通りません。

処理の例

- ① いわば、期待の星である。エイセイデアル。
- ② いわば、期待の星、カッコ、エイセイ、トン、である。
- ③ いわば、期待の星、エイセイ、である。

このカッコは「衛」だけにありますが、実際は星までかかっているカッコとして処理する必要があります。つまり、星（衛星）として処理しないと聞き手にはわかりません。

「向日葵」の処理

- ① ……また、ヒマワリは、漢字の字、ムカウニ、タイヨウノヒゴ、アオイ、の名のとおり、太陽のほうを向いて咲くといわれている。
- ② ……また、ヒマワリは、ひまわり、漢字の字、ムカウニ、タイヨウノヒゴ、アオイ、の名のとおり、太陽のほうを向いて咲くといわれている。

ここでは漢字の表記が問題です。どんな漢字かを読んでいく必要があります。文章がややこしいときなどは、①の処理の読みの方が聞き手にはすんなりと分かります。

例文「日本国の特徴」

※ ……ここで、作者は「直ぐ細長い羽根を両方へしっかりと張って（ハチが）ぶーンフーンハヒラガナ、フーンと飛び立つ」と書いています。谷崎さんは、この「ぶーン」というのはこれでなければいけない、これではじめて、例のニブい響きを持った鈍重なハチが飛び立っていく姿が出るのだ、と言っている。

・・・けれども、今思うと、ヒラガナ「ぶ」というところにはハチの太った感じがあって、その次の、ヒラガナ「ーン」というところはまっすぐに飛んで行く気持が出ているというのでしょうか。

・・・慶応大学へ行きますと、マダレニ、アルファベットノK、マダレニ、アルファベットノQ大学という文字が盛んに使われておりますが、たしかにこう書いた方が簡単です。音声訳者注、慶応大学の漢字はどちらにもまたれがあります。注終わり

Q. 外来語はこの先ますます増えるのだろうか。

A. これまでの調査結果から言えることは、現在、日本人の多くは外来語の増加にあまり抵抗感を抱いていないということである。たとえば、昭和54年の全国調査の結果は、全体ではマスコミにおける外来語の使用を「好ましい」と思う人44%、「好ましくない」と思う人49%とほぼ半々である。しかし、10～20代だけで見ると、「好ましい」と思う人が大体6割を占めている。

さらに、昭和63年の首都圏調査では、「意味がわかりさえすれば、外来語や外国語をいくら使ってもかまわない」と思う人54%、いわゆる和製英語を許容する人82%、語形の日本的省略を許容する人74%といった結果が出ている。これらの数字は、外来語に対する日本人の寛大さを如実に示している。外来語のいっそうの増加を予言するかのような数字である。

明治時代から現在まで、太平洋戦争中の一時期を除いて、欧米系の外来語は常に増加の一途をたどってきた。その背後には日本人一般のこのような外来語に対する寛大さがある。このまま行けば、今後、日本語の語いの中に占める外来語の割合がますます大きくなることは確実である。日本語の語いはいずれ外来語によって「占領されてしまう」だろうと言う

人さえいる。

しかし、確かに数は増えたが、外来語には基礎的な語いが少なく、多くは使用分野の限られた専門語が、あるいは新陳代謝の激しい新語・流行語・風俗語である。その意味では外来語は今なお周辺的な語いにすぎない。和語や漢語に造語力の衰えが見られ、外来語が日本語の中核部分にも浸透しやすい状況ではあるが、意味があいまい、語形が長くなりがちなどの欠点もある。今後外来語がさらに増えるとしても、一直線にということにはなるまい。

盲人情報文化センター

音声訳講習会のお知らせ

盲人情報文化センターでは、98年5月から約30回の予定で音声訳講習会を予定しています。講習会の要項は3月初旬にはできあがりです。問い合わせは録音製作係 清水まで

きれいに録音する為に 第29回

転写が起こりにくい録音レベルは？

これまで、カセットデッキで録音する場合、「録音レベルはピークレベルメーターのピークが常時「0」に残っている程度で録音して下さい。」と指導していました。しかし、この「常時「0」に残っている程度」という言い方が誤解も与えているようで、最近、転写を起こしているテープがみられます。

ピークレベルメーターが常時「0」に届いているという意味は、「メーターが振れたときにピークマークが残りますがそのマークが0を超えない」という意味なのです。「常時0に届く」という意味を、「全体の振れが常時0に届いている」という解釈をされているようです。そうではなく、常時振れている部分は「-4」くらいになるように録音してください。ピークのマークが「0」を超えないように注意して下さい。

さて、「転写」が起きる原因ですが、カセットテープは電気信号を磁気に変えて記録していますが、テープが極めて薄い為、記録した磁気が重なっているテープに互いに写ってしまう現象の事です。本来の言葉が聞こえてくる前と後にかすかに同じ言葉が聞こえてきます。テープが薄いほど影響を受けやすいので、C-60のテープよりC-120の方が転写が起きやすくなります。

最近では転写を起こしにくいテープも

販売されているようですが、最近、盲人情報文化センターで実験したケースでは、普通のテープでもレベルメーターが常時-4程度で録音したものは、転写はめだたないということが分かりました。しかし、メーターが常時0まで振れているテープは、すぐに転写を起こしています。転写を恐れてメーターの振れを常時「-20」程度で録音する方もあるようですが、このテープをマスターとして長期間保存した場合は、転写音は大きくなります。これは、録音レベルが低いと再生で聞くとときにボリュームを大きくする為、転写している音も同時に大きく再生されてしまうからです。

カセットテープでの「転写」そのものは防ぐことは出来ませんが、録音レベルを適切に行えばかなり改善することができます。

また、カセットテープだけでなく、オープンテープの場合も、録音レベルが+に常時届いているような場合は、すぐに転写がおきます。オープンテープの場合は、vuメーターが常時-3から-6程度振れており、ときどき0に届く程度の録音レベルを守ってください。



利用者から製作依頼を受けている原本

書 名	＜分類＞
『ニュースキン徹底知識』伊勢龍彦著	＜化粧品＞ 246頁
『IDNハンドブック成分と作用がわかる本』伊勢龍彦著	＜医学＞
『IDNがあなたを守る これでガン・成人病は怖くない』ニューライフ出版	
『日本のシュタイナー幼稚園』高橋弘子著	＜教育＞
『私のまわりは美しい』松井るり子	＜教育＞ 四六判 205頁
『カメの衣・食・住』徳永卓也著	B5判 141頁
『ディスカバリー世界の真相への接近』	＜宗教＞ B5判 308頁
『ヨセフとその兄弟 III』	＜宗教＞ B4判 562頁

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か5分でも結構ですから録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

今回引き受けて頂いた 原本とグループ

『ヨセフとその兄弟 II』	＜宗教＞	鳥取音訳グループ
『福祉国家はどこへゆくのか』		えくてもあ
『3001年終局への旅』アサー・C・クラーク著		〃
『VDM1001-サーズマニュアル』		〃
『釈迦の本心』大川隆法著		ICCB
『シバ謀略の神殿』ジャック・ヒギンズ著	＜小説＞	〃
『レディー・ジョーカー 上・下』		〃
『地獄からのメッセージ』A・J・クィネル著	＜小説＞	テープライブラリー西宮
『クリエイティング・マネー』サネヤ・ロウマン他著		〃
『知っていますか？視覚障害者の暮らし』		〃
『こころの段差にスロープを』		〃
『夢をつなぐ 全盲の金メダリスト河合純一物語』		〃